

いすみ農業改良

普及だより

第69号

平成29年2月20日

発行：夷隅農業事務所

TEL0470-82-2213 FAX0470-82-3975 〒298-0212 千葉県夷隅郡大多喜町猿稻14

ホームページアドレス <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-isumi/>



作付場所の検討



かじられた
トウモロコシ

ほ場の外で
確認されたサル



防止柵設置作業



完成した防止柵

集落ぐるみのサル対策が大成功！

勝浦市大森地区では、ほ場整備事業の実施に向け、営農品目の試作を行っています。昨年の夏は消費者需要の高いトウモロコシにチャレンジしました。

同地区はイノシシやシカのほかにはサルが出没し、サルの大好物であるトウモロコシは予想どおり収穫前の若いさやのときに食害が確認されました。そこで、ほ場整備事業推進委員が中心となり、しなりやすい支柱を用いてサルの登る能力を抑える工夫をした「簡易サル侵入防止柵」を設置しました。併せて、集落で朝夕の見回りや追い払いをしたことで、柵の設置から収穫までの二週間、サルの食害はなく、無事に収穫できました。柵による物理的防除と見回り等の心理的防除が効果をあげたと考えられます。委員からは「今まで栽培を諦めていた品目も希望が持てた。」との声が聞かれました。今後も、集落ぐるみの対策の継続及び改善を行い、根気強い取組を期待します。

イネばか苗病対策の徹底

平成二八年産水稻にイネばか苗病が多く見られました。本病は、発生ほ場以外の周辺で栽培している他の生産者にも多大な影響を及ぼします。

(一) イネばか苗病について

本病は、カビの一種であり、種子伝染したのち、浸種の段階で感染が広がります。育苗箱では、淡黄緑色の徒長苗となり、籾に菌糸が見られます。本田の発生は、黄緑色で徒長し目立ちます。その後、枯死した葉鞘に白色の胞子を形成し、周辺の稲に感染します。

(二) 予防と発生後の処置

「種子予措く育苗」

本病の防除は「種子消毒」が最も有効な手段です。特に効果の高い化学合成農薬（ヘルシードTフロアブル等）を使用します。温湯消毒や微生物農薬だけの消毒効果は、温度管理等に大きく左右され、効果が安定しません。使用する場合は、温湯消毒と微生物農薬を組み合わせる適切な温度で消毒します。本田での発



本田の発生(6月下旬)

生を未然に防ぐために、発病苗箱をそのまま移植しないでください。「本田で発生した場合」

本田に発生が見られた場合は、できる限り稲株ごと抜き取り、土中に埋めます。

また、発生が見られたほ場では自家採種をせず、必ず種子更新を行います。

(三) 水稻種子生産の周辺では発生させないください

いすみ市夷隅地区は、水稻種子生産が行われています。種子生産では、本病の発生があってもならず、周辺に見られる場合でも種子にできない可能性があります。

生産者の皆様には、優良種子の更新および適切な種子消毒の徹底により「イネばか苗病」の発生防止に御協力をお願いします。

がんばる農業者紹介 いすみ市 大久保正一さん

いすみ市行川の久保正一さんは、以前勤めていた会社を退職し、平成二七年に新規でイチゴ経営を開始しました。「紅ほつぺ」「とちおとめ」等を約六a土耕栽培し、行川交差点近くのハウスで直売しています。

農園の名前は「六いちご園」で、ご自身の名前「正一」の文字を足すと六になることからこの名前を付けたそうです。

イチゴは、上手に作りこなすためには高い栽培技術が要求される品目ですが、大久保さんは他のベテラン農家から技術のヒントを教えてもらいながら自分に合った栽培技術を追求し、初年度から美味しいイチゴを生産することができました。

大久保さんは食味を最も重視しており、より美味しいイチゴ作りを目指して日々かん水量などを細かくチェックしています。お客さんの評判も上々で、夕方には売り切れてしまう日も多い

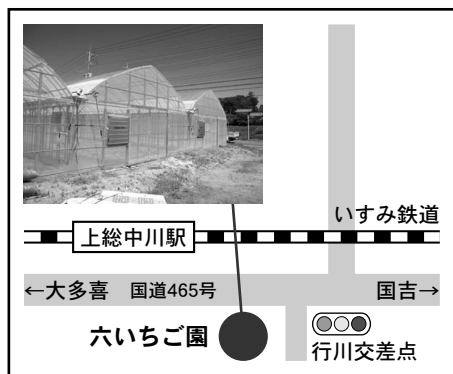
状況ですが、研究熱心な大久保さんはまだまだ満足していない様子です。

現在は二作目となるイチゴが収穫期を迎えています。

今後はハウスの規模拡大も検討中であり、大久保さんの更なる活躍が期待されます。



収穫期を迎えたいちご



六いちご園所在地

集落一丸で畑作に挑戦！ 大福営農組合の紹介

夷隅川1期地区基盤整備事業に併せ、地域を維持発展させていく農地の担い手として、平成二四年四月に集落営農組織「大福（おおぶく）営農組合」が東中滝地区で設立されました。同組合では、ソバ、ナバナ、トウモロコシ、エダマメ、ソラマメ、ケイトウ等、様々な品目を栽培してきました。今回は、約三五aの畑で取り組んだトウモロコシとエダマメについてご紹介します。

《先進地視察で収量向上》

組合設立当初からトウモロコシは近隣直売所での人気があり、重要な品目となっていました。五月の連休ごろから発生するアワノメイガ、アブラムシ等の害虫に苦しめられていました。そこで、平成二八年にトウモロコシの産地である山武市松尾のJA山武郡市トウモロコシ部会を視察し、省力化技術、適期防除技術を学びました。その結果、

組合ほ場のアワノメイガ被害を大幅に減らすことができ、出荷が増加したことから、組合員は引き続きトウモロコシ生産への意欲を燃やしています。

《来場者数対前年比一四〇%！
人気のエダマメ祭り》

大福営農組合は十月に「大福営農組合エダマメ祭り」と称して収穫イベントを開催しています。三年目となった平成二八年は、四〇〇名を超える来場者数となりました。



大福エダマメ祭り

露地でお手軽、ケイトウ栽培

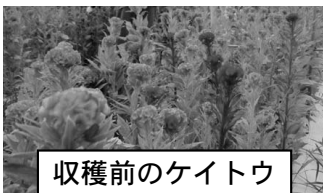
久留米ケイトウは花房が球状をした品種で、夏の仏花として使用される代表的な品目です。

露地栽培でき、他の花き品目に比べ栽培の労力、資材コストが少ないため、初心者でも栽培が容易です。

今回は久留米ケイトウの栽培方法について紹介します。

(一) 播種と育苗

一aで一〇mlの種子と二〇〇穴のセルトレイ二三枚が必要となります。一穴に二粒播種し、子葉が展開したら小さい株を間引いて、一穴一株に仕立てます。播種時期は四月上旬と六月中旬で、概ね播種から三カ月で出荷となります。発芽適温が二〇〜二五℃のため、



収穫前のケイトウ

四月播種の場合施設内で育苗します。定植適期は、本葉四枚（播種後三週間程度）です。

(二) 定植

排水の良いほ場に基肥として窒素、リン酸、カリを分量で一〇a当たり三kg施用します。前作があるほ場は無施肥とします。畝幅は九〇cmとし、雑草対策のためにマルチを張ります。フラワーネットは一二cm角七目のものを使用し、一目に一株定植します。定植後はかん水を行い、活着を促します。

(三) 中間管理

定植後はヨトウムシ、アブラムシの防除を定期的に行い、生育に合わせてフラワーネットを上げていきます。追肥はしません。窒素を与えすぎると茎が扁平になり、奇形花が発生し、品質を下げます。収穫時に、茎は鉛筆程度の太さ、下葉が黄ばむくらいを目標とします。

(四) 収穫と出荷

花穂が大きくなり花首が硬くなったら収穫適期です。根元から切り、草丈の半分程度葉を落とし、涼しい場所で一晚水揚げをして出荷します。

指導農業士新規認証者の紹介

吉野茂子さん (勝浦市)



勝浦市名木で水稲専作経営として水田面積二二haを作

付しています。後継者の御木さんとともに同市の認定農業者となり、家族経営協定を締結し、役割分担を明確に、まさに二人三脚による水稲経営を行っています。

また、経営以外の活動では、平成二八年四月から、同市農業委員として、農地行政に関わり、多忙な毎日を送っています。さらに、名木地区は、周辺地区と水田の基盤整備事業を検討しています。女性の活躍する場面を増やしていく女性農業者のリーダーとして、活躍が期待されています。

積田英夫さん (いすみ市)



いすみ市引田を中心に四八haの水田で飼料用米、稲発

酵粗飼料(WCS)、牧草の生産や稲ワラ収集など、大規模な水田農業を行っています。夷隅地区では、WCSの生産利用が進んでいます。この取組の中で収穫コントラクターとして上総中川地区飼料作物生産組合を設立、代表者として地域内流通体制整備や取組面積の拡大に貢献しています。

また、自己経営を転換して、将来の地域の核となる農業組織を目指し、農事組合法人ティエムティエを設立。近隣の営農集団とも連携することで収益性の高い水田農業の確立を目指しています。

あつまれ！セミナー・実践塾受講生の募集

■経営体育成セミナー

対象者 新たに農業に就いた方(概ね三五歳まで)

開催時期 月二回程度 六月〜二月

内容 『知識・技術』や『問題解決能力』の習得、

『地域の仲間づくり』を目的として、三年間の段階別カリキュラムを組んでいます。

■いすみ農業実践塾

対象者 主に定年帰農者やUターン就農者等の方

(三六歳から六五歳)で、本格的な生産物

出荷を目指す方

開催時期 月一回程度 六〜二月

内容 ナバナ、ケイトウ、ソラマメ等について、

基本的な栽培知識・技術を学びます。

※セミナー・実践塾では、研修に係る実費を徴収する場合があります。

稲作農家の皆さんへ 飼料用米で安定収入の確保を

食生活の変化や高齢化などにより、米の需要は全国で毎年約八万トン(千葉県のみ約三割に相当)も減少しています。

生産量が需要を上回り在庫量が増えると、米価の下落を招きます。安定した収入を確保し、米の需給改善を図るためにも、飼料用米の栽培に取り組んでみませんか。

〈飼料用米をおすすめする理由〉

● 既存の機械や施設をそのまま使えます。

● 国や県などの支援策が受けられ、安定した収入が確保できます。

● 「夢あおば」など専用品種を作付けすると、更に収入増加が見込めます。

平成29年度は6月に開講予定です。受講を希望される方は、夷隅農業事務所改良普及課(電話82-2213)へ平成29年5月26日までに御連絡ください。